

[実践報告]

教育実習訪問指導の記録から考える事前・事後指導 —教育実習事前指導と教職実践演習の充実に向けて—

池田 恭浩（京都先端科学大学）・田村 徳子（京都先端科学大学）
大舘 健司（京都先端科学大学）・武部 敦（京都先端科学大学）
瀧本 真己（京都先端科学大学）・梶田 和宏（京都先端科学大学）
濱中良（京都先端科学大学）・長谷川清隆（京都府立南丹高等学校）

1. はじめに

京都先端科学大学（以下、本学）の教職課程では4年次の教育実習の事前指導として、3年次に教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱを行っている。そして、事後指導としては「教育実習A・B」における報告会の他に、教職課程全体の総括である「教職実践演習」を行っている。

例年、多くの学生が4年次の春学期に教育実習を行っている。そして、8月下旬から9月上旬には本学の教職課程に関わる教職員が集まって教職課程連絡会（2023年度より教職課程FD・SD研修会）を開催してきた。そこでは、春学期の成績をもとに教職課程の学生の様子を交流して、これまでの指導を振り返ったり、今後の指導方針を確認したりしてきた。もちろん、その中で教育実習の訪問指導（本学の教職課程では原則として全ての教育実習校で訪問指導を行っている）についても触れてきたが、訪問指導の記録を元に事前指導である「教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ」や事後指導である「教職実践演習」の更なる充実に向けて考えたことはなかった。

そこで本稿では、2023年度春学期の教育実習訪問指導の記録から、今後の「教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ」や「教職実践演習」をどのように改善していけばいいのかを考えていく。さらに、元京都府立農芸高等学校長の長谷川清隆先生（現京都府立南丹高等学校教諭）から、大学の教職課程における教育実

習の事前・事後指導に求めることを教育現場からの提言として寄稿して頂いた。

2. 2023年度教育実習校

2023年度、本学では30名の学生が教育実習を行った。その詳細は表1に示すとおりである。

表1 2023年度教育実習校・実習期間一覧

No.	教科	実習校	実習期間
(1)	理科	大阪市立長吉西中学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(2)	理科	広島県立安芸府中等高等学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(3)	理科	吹田市立第五中学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(4)	理科	舞鶴市立青葉中学校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(5)	理科	京都市立西院中学校	2023年8月28日(月)～9月15日(金)
(6)	保健体育	西宮市立上ヶ原中学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(7)	保健体育	京都府立桂高等学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(8)	保健体育	仁愛女子高等学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(9)	保健体育	京都市立京都工学院高等学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(10)	保健体育	佐賀県立香楠中学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(11)	保健体育	京都文教高等学校	2023年5月22日(月)～6月10日(土)
(12)	保健体育	亀岡市立大成中学校	2023年5月25日(木)～6月14日(水)
(13)	保健体育	草津市立草津中学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(14)	保健体育	栗東市立葉山中学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(15)	保健体育	京都府立向陽高等学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(16)	保健体育	愛知県立美和高等学校	2023年5月29日(月)～6月16日(金)
(17)	保健体育	京都市立中京中学校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(18)	保健体育	綾羽高等学校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(19)	保健体育	京都先端科学大学附属高等学校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(20)	保健体育	高知大手前高等学校 吾北分校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(21)	保健体育	京都市立西京高等学校	2023年6月12日(月)～6月30日(金)
(22)	保健体育	京都市立大原野中学校	2023年8月28日(月)～9月15日(金)
(23)	保健体育	京都市立高野中学校	2023年8月28日(月)～9月15日(金)
(24)	地理歴史	鶴学園広島工業大学高等学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(25)	社会	神戸市立伊川谷中学校	2023年5月22日(月)～6月9日(金)
(26)	地理歴史	京都市立堀川高等学校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(27)	地理歴史	京都先端科学大学附属高等学校	2023年6月5日(月)～6月23日(金)
(28)	地理歴史	神戸市立須磨翔風高等学校	2023年6月19日(月)～7月7日(金)
(29)	社会	鳥取市立鹿野学園(小中一貫校)	2023年6月19日(月)～7月7日(金)
(30)	社会	米子市立福米中学校	2023年8月28日(月)～9月15日(金)

出典：筆者ら作成。

3. 2023 年度教育実習訪問指導の記録

(2023 年 9 月 6 現在・非常勤講師の訪問分を除く)

以下は、教育実習訪問指導を行った専任教員らの記録をまとめたものである。なお、項の番号は表 1（前節）で示した実習校の番号に対応している。一部、記録ない実習校があるが、それについては訪問をしていない、あるいは非常勤講師が訪問した学校である。

(2) 広島県立安芸府中高等学校

① 研究授業参観

2 年生国際コース 20 名を対象に、顕微鏡の観察実験を行った。

念入りに教材研究を行っているため、生徒は集中して授業に臨んでいた。学習指導案もよく練られおり、計画的に本単元を指導していることが窺えた。校長先生以下、5 人の参観者があり、概ね好評な評価を頂いた。

② 合評会

副校長、指導教諭 2 名に参加して頂き、授業の感想やアドバイを頂いた。

③ 成果と課題

実習生が真面目で成績が優秀なため、本学に対する評価はかなり高いものがあつた。今後の入学生増に期待が持てる。

教育実習に関する高校との連携は実習訪問のみに終わっている。今後は 3 年次からの連携を試みるなど連携強化が求められる。

(3) 吹田市立第五中学校

① 研究授業参観

2 年生 36 名を対象に、第 2 分野生物の特徴に関する単元の授業を行った。念入りに教材研究を行っているため、生徒は集中して授業に臨んでいた。学

習指導案もよく練られおり、計画的に本単元を指導していることが窺えた。担任以下、2人の参観者があり、概ね好評な評価を頂いた。

② 成果と課題

受け入れ中学は、病休の職員が続出しており大変な状況下で実習生を迎え入れてくれていた。校長先生によると実習生はそれに応え大変努力していたようである。技能面では即戦力レベルであるが、専門教養が不足している。教員採用試験を突破するために、1年時からの系統的なカリキュラムの構築が強く望まれる。

(4) 舞鶴市立青葉中学校

① 研究授業参観

3年生を対象に、運動及び速さについて講義を行った。授業をたくさん担当させて頂いているおかげで、落ち着いて進行できていた。発問も的確なポイントで行われていた。学習指導案もよく練られおり、計画的に本単元を指導していることが窺えた。

35名中、9名が欠席しており、多動等、特別な支援を要する生徒が2名も参加している大変な状況の下で、しっかりと授業を行っていた。

② 反省会

指導教諭に参加して頂き、授業の感想やアドバイスを頂いた。

③ 成果と課題

実習生が真面目で全力で取り組んでいるため、本学に対する評価はかなり高いものがあつた。教育実習終了の翌日が京都府の採用試験日である。実習期間の調整ができないものか。真剣に採用試験に臨んでいるものは、大きなハンデを背負うことになる。

(8) 仁愛女子高等学校

① 授業の概要

- ・ 5校時
- ・ 1年7組 33名 研究授業 先生方7名参観
- ・ 保健授業（応急手当の意義とその基本）。タブレットは全員持参していたが本時の活用はなかった。他のクラスでも授業を行っていて、本単元は4回目の授業。応急手当の必要性の基礎的な学習

② 授業の状況

導入で救急車の全国と福井の到着時間の平均時間の差を発問。福井の到着時間は全国に比べて早いことは理解したが、これを上手く展開での内容に繋がれたらもっと良い導入になったのではないか。全国平均 9.4分 福井県 7.4分。発問の言葉の大きさも言葉使いも教師らしくなっていたが、話すスピードが少々早く、生徒の反応を見ながら話すことができればよかった。気になったのは、説明が多く生徒への発問やグループ討議的に考えさせる授業展開の工夫があればもっと良かったのではないか。

③ 授業後面談

担当先生から、当初の授業では生徒への言葉かけも教員ではなくお願いするような感じであったが、授業を積み重ねてきてよくなってきた。3年生のHRで1時間進路に関わる話をした。3週間の中に生徒との関係もつくり、相談にもものっていたと話があった。（複数の生徒が本学への進学希望を持っている。英語の授業が心配）等々、本人からは、本日は多くの先生方にも見て頂き緊張して上手く進められなかったと反省していた。

④ 所感

先生方に丁寧な指導して頂いて本人の成長も見られた。指導案に関しては、もう少し指導する必要があると感じた。

(9) 京都市立京都工学院高等学校

① 研究授業の概要と指導状況

教育実習訪問指導では、2年生保健「生涯を通じる健康」(働くことと健康)と1年生体育「バレーボール」(三段攻撃)と題した計2つの研究授業を参観し指導助言を行った。当日は実習校の学校長も授業参観されている中、保健体育科教諭4名の先生方から実習生の研究授業に対して指導助言を頂いた。

② 研究授業の指導内容と所感

教育実習訪問指導では、ICTを活用した保健体育の授業展開を実践しており、本学の教職関連の授業内でもICTを効果的に活用した授業設計や実践をする機会を積極的に設けていく必要があると感じた。また、教育実習生であることを前提とせず、学校現場の保健体育科の教員がどのような立ち振る舞いと心構えで教壇に立つべきかについて、有難くかつ厳しいご助言とご指導を受けた。最後に、体育授業での安全面への配慮についてもご指導を受けた。

京都府と京都市における学校現場への教員養成の役割と責任を担う本学において、学生の教授能力や指導能力を教育することは勿論だが、教員を目指す学生の態度、姿勢、心構えなどをいかに教育していくかが教職に携わる大学教員に問われていることを痛感した。保健体育教員を養成する教職に従事する教員として、今後は京都近隣の学校現場との教育連携を強化するとともに、わが国の学校教育や保健体育科の将来構想や展開を見据えて、大学での授業内容や指導方法を現場の実態と対応させて指導する必要があると感じた。

(11) 京都文教高等学校

① 授業の概要

- ・ 3校時
- ・ 高校3年 1クラス 女子18名
- ・ 基礎運動及び創作ダンス実習生の指導は初めてのクラスであった。この

授業では、体育の実技指導は3回目。文教高等学校の独特な基礎運動の練習（本人も3年間行った運動）。最後15分程は数人に分かれて、ダンスの発表に向けた創作ダンスの練習

② 授業の状況

大きな声で指示ができていたが、指示の出すタイミングが課題。生徒との人間関係は難しい状況だが、指導（運動）はスムーズに行えていた。初めてのクラスでの指導であったので、授業の盛り上がりには欠けていた。全体の生徒への気配り、目配りができればよいのだが。進学クラスのおとなしい女子が多いクラスのように、静かに実技を行っていたイメージである。（クラスにより雰囲気が違うようだ。）授業初めにラジオ体操を音楽に合わせてやらせていたが、声を掛けて行わせる方がよかった。

③ 担当教諭と連携

1週目が試験。2週目が授業見学や警報の関係で。大きく予定が変わり、授業は今週からで、実習生には時間が少なくなっている。研究授業は7日（水）にダンスで行う予定。実習生は、まだ名前と顔がしっかりと覚えられていない状況。

④ 所感

大学での授業の様子から少し心配していたが、しっかりと声も出しはきはきと指導ができていた（自分の動きに自信を持っていたよう）。

(13) 草津市立草津中学校

① 1校時 保健研究授業 参観

- ・ 1年5組 34名 先生方8名参観
- ・ 保健授業（心身の発達と心の健康）
- ・ 性意識の自身の変化と性への適切な行動や選択について

- ・ 他のクラスでの授業を行っていて、本単元は4回目の授業
- ・ 性被害などに巻き込まれないようにする内容もあり少々難しい単元である。

② 授業の状況

導入でノートウォームアップ問題での指導がわかりにくかった。生徒にいつ頃異性と手をつながなくなったか？が問題であった。年代を聞いていたが、本質はなぜ繋がなくなったかを考えさせることが、異性への意識の変化に繋がるのではないか。生徒との関係は非常に良く、雰囲気もよく和やかにしっかりと対話しながら授業が展開していたように思う。気になったのは、説明が多く生徒への発問やグループ討議的に考えさせる授業展開の工夫があればもっと良かったのではないか。

③ 授業後（担当の先生は次の授業で不在）

時間がなく、廊下で立ち話的に教育実習の様子について聞く。受け持ちクラスは1組で道徳の授業を行う。体育は2組～5組を受け持つ。今日のクラスでは、思ってもいない生徒の答えで少し指導内容にあせり時間の配分が上手くいかなかった。

(14) 栗東市立葉山中学校

① 授業の概要

- ・ 2校時
- ・ 3年4組 31名（男子17、女子14）研究授業 先生方6名参観
- ・ 実技授業（バスケットボール）
- ・ 6時間中の2時間目の授業。バスケットのパスからシュートへのスムーズな行い方。男女共習の授業のため、技能の差が大きい。

② 授業の状況

導入で緊張のあまり、本時のねらい等を生徒に説明せず行う。葉山中学校の導入段階は、ラジオ体操から始める決まりであった。しっかりと声を出して説明や指示は出来ていたように思えるが、まだもう少しはきはきと指示ができればなお良かった。指導案通りに授業は進められていたが、女子の指導に工夫が必要であった。パスからシュートへのイメージが女子生徒に持たせる工夫があれば良かった。活動を止めて次の指示までが早く、生徒が注目して、ボールの音がなくなってから集中している段階で指示する必要がある。

③ 授業後面談

校長室で面談を行う。教育実習は基本楽しいとのこと。授業では緊張して初めのねらいの指示ができないまま授業に入ってしまったと反省していた。上記の本時の課題を確認して、残り授業で生かすよう指示。指導案の作成が難しいと話していたが、担当の先生方によく指導して頂いていると感じた。

(15) 京都府立向陽高等学校

① 研究授業見学およびフィードバック（4限～4限後）

保健科の単元「現代社会と健康『休養・睡眠と健康』」の研究授業を見学し、授業後、実習生にフィードバックを行った。

研究授業は視聴覚室で行われた。授業開始から教室内はざわついており、授業が始まってからも私語の多い状況が続いていた。授業全体の構成としては、i)生徒に教科書を音読させ、実習生がそれを読み直し、その部分について口頭で説明する、ii)補助プリントで作業をさせる、iii)副教材で知識を問う穴埋め問題に取り組ませ、答え合わせをする、といったものであった。教室前にはモニターがあるのみで黒板はなかったせいもあり、板書はせず、一部モニターを使用しスライドを提示するといった方法がとられていた。全体的に、生徒の積極的な様子は見られず、生徒が主体的に学ぶための授業改善が必要であると感じられた。

授業後のフィードバックにおいては、実習生から、補助プリントやモニターを使用することで、1回目の説明のみの授業よりは生徒に前を向かせることができたといった、自身の成長についての意見が述べられた。一方で、話をはじめると寝てしまう生徒が多いという課題についても言及された。

② 担当教諭への聞き取り（4限前後）

実習生の教育実習の様子について情報共有を行った。担当教諭からは、実習生に対する問題点は特に伝えられず、がんばって取り組んでいる旨が伝えられた。

(16) 愛知県立美和高等学校

① 研究授業見学およびフィードバック（6限）

保健科の単元「生涯を通じる健康『働くことと健康』」の研究授業を見学し、授業後、実習生にフィードバックを行った。

研究授業については、クラスの雰囲気がとてもよく、生徒が授業を楽しんでいる様子が感じ取られた。発問や、黒板の字が見えているかの確認、グループワークの適確な指示（「一回前を向いて」など）や、しゃべっている生徒への注意も出せており、生徒とのコミュニケーションが非常によく取れていた。また、机間指導もできており、教室の空間の使い方も評価できる。一方、グループワークにタブレットを使用していたが、個人作業の時間が多く、その作業成果をどうグループワークとして成立させるかといった面では課題が見られた。また、「働くこと」と「健康被害」との関連付けが甘かったり、「AIアシスト」という生徒からの発言に知識を持っていなかったり、使用していた電子黒板の文字が小さかったりといった点は今後に向けた改善点であろう。

授業後のフィードバックにおいては、以上のような内容を実習生に伝えた。実習生からは、i)タブレットを使用しての初授業であったことからうまく活用できなかったこと、ii)いつも私語が多くなりがちな特定の生徒への対応がしきれなかったこと、iii)具体的にかみ砕いて説明できなかったことについて、

反省が述べられた。

教育実習全体を通して、非常に有意義な時間を過ごせたようであり、実習を通して、教職へのモチベーションも高まったようであった。

② 担当教諭への聞き取り（6限前）

実習生の教育実習の様子について担当教諭と情報共有を行った。担当教諭からは、実習生の授業準備に対する姿勢や、生徒とのコミュニケーション、授業のやり方について、教員になるにふさわしい人材であるとの非常に高い評価を頂いた。ぜひ教員採用試験に合格し、愛知県の教員として活躍してほしいとの期待も伝えられた。

(17) 京都市立中京中学校

① 授業の概要

- ・ 6校時 授業 参観
- ・ 3年2組 22名（男子9、女子13）研究授業 先生方4名参観
- ・ 保健授業（感染症の広がり方）。感染症の感染経路とその広まり方を理解するねらい。スライドの活用やグループ討議を入れた展開をしていた。身近な材題でもあり、生徒は関心がある単元である。

② 授業の状況

前回の授業の復習（生活習慣病）から本時の内容に触れた導入。感染症とは何か？を説明していたが生徒に考えさせて発表させても良かったのではないかと。グループ協議を3回行っていたがその都度机の移動をしていたが、グループのままでの授業を進めても問題はなかったように思う。本時のねらいに迫っていた授業かと言えばもう少し工夫があってもいいかなと思われる。教科書の内容を全て教えるのではなく、教科書を活用してねらいに迫ることがポイントである。ワークシートやPP作成及びグループ協議などの授業の工夫は行っていた。感染症の病名が自分の考えていた以外が生徒から出てき

てその対応をスルーしていた場面があった。しっかり教材研究が必要である。教科書の音読を一人句点ごとに読ませるのではなく、段落ごとの方が良い。

③ 授業後

終活や掃除の指導があり研究協議は行わなかったが、本人は緊張して、上手く進められなかったと言っていた。

(18) 綾羽高等学校

① 研究授業見学およびフィードバック（3限～3限後）

保健科の単元「現代社会と健康『食事と健康』」の研究授業を見学し、授業後、実習生にフィードバックを行った。

研究授業については、生徒への発問や机間指導、生徒への指示（「後で書く時間をとるので前を向いて」など）が適宜、取り入れられていた。授業の構成としては、i)教科書を使用し、内容を音読させ、重要箇所ラインを引かせる、ii)スライドを使用し説明する、iii)生徒からの意見を板書する、といったものであり、生徒を参加させるための工夫が見られた。一方で、内容については、教科書に記載されているものに留まっていた感があった。たとえば、「生理が止まる」「高血圧になる」といった現象を紹介するのみではなく、それが（高校生にとって）どういった問題につながるのかなど、本学健康スポーツ学科の専門性を活かした踏み込んだ内容にすれば、より生徒が考える授業になったのではないだろうか。

授業後のフィードバックにおいては、実習生から、おとなしいクラスであったことからなかなか活発に発言が得られなかったこと（同じ内容の授業を美容系のクラスで行うと発言が多かった）から、クラスに合わせた発問や説明の仕方になるよう工夫が必要であったとの反省が述べられた。一方で、保健の授業を約10回程度重ねていることもあり、生徒が話す授業になってきたという成長点についても述べられた。実習全体を通して、指導案は2週目までにすべて作成できたということで、野球部にも参加することができた

のことであり、充実した実習を過ごせているとの印象を受けた。

② 担当教諭への聞き取り（3限前及び3限後）

実習生の教育実習の様子及び研究授業の内容について情報共有を行った。担当教諭は、実習生が在籍していた時にお世話になっていた野球部の監督であったことから、実習当初から良好な関係を築くことができていたとのことであった。指導案を早めに作成し終えた点や、野球部に参加している点など、全体としてよく取り組んでいるとの評価を得られた。

(19) 京都先端科学大学附属高等学校

担当教員にご挨拶した後、研究授業を参観した。

授業終了後、実習生、担当教員と研究授業内容の振り返りを行った。担当教員からは、高校生時は大人しい印象が強かったが、実習では高校生の前でハキハキと話をして、授業もスライドを活用して視覚的にわかりやすい指導をしていると評価して頂いた。本人も実習を通して、自分の成長を感じているようである。

(21) 京都市立西京高等学校

3限目に研究授業（1年生男子バスケットボール）を見学させて頂き、4限目に事後指導を、指導教員を含めた体育科4名で行った。

事後指導では多面的に助言をもらうことができ本人も参考になっている様子であった。研究授業は指導しているというよりは授業をこなしているような印象があり、事後指導では細かな点（先生の立ち位置・ボールの配置等の全体の動線・生徒に役割を与えること・学校の体育授業の目的と授業内容の整合性など）まで指摘して頂いていた。

事後指導後の話では受け入れ先は実習生がどの程度教員を志望しているのかを気にされている様子であった。

これまで実習生を数多く受け入れておられる中で、実習生の熱量が高いと

より手厚く指導したくなるという話もあり、実習生の熱量は直に伝わっていると感じた。

(24) 鶴学園広島工業大学高等学校

教育実習生の研究授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、高等学校地理歴史科（日本史分野）の第2章古代国家の確立 7節「平安初期の政治と文化」（3年6組）が取り上げられた。本時の目標は「平安仏教の隆起について当時の歴史的背景を基に考察することが出来る。（思考力・判断力・表現力）」であった。

授業では、プリント、スライドなどを使って、平安仏教が広まっていく背景に何があったのかを考えるために、空海と最澄が真言宗と天台宗を確立する過程について指導者が説明を行った。しかし、授業全体として指導者が一方的に話す授業になってしまい、いかに生徒を授業に参加させればいいのかという課題も見られた。

事後指導では、主に生徒を授業に参加させるための工夫について、実習校の教頭、総務部長、担当教諭と共に指導をした。

実習校の教頭、総務部長、担当教諭からは、実習生が積極的に、そして熱心に教育実習に取り組み、プリントやスライドづくりをしっかりとやっていることを伝えて頂いた。さらに、高校時代から比較をして、大学で鍛えてもっていることわかりましたとの言葉も頂いた。

(25) 神戸市立伊川谷中学校

教育実習生の研究授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、中学校社会科（地理的分野）の第2章日本の姿「世界の中での日本の姿」（1年4組38名）が取り上げられた。本時の目標は「他国から見た時の日本の位置を表すことが出来る（知識・技能）」であった。

授業では、プリント、地図帳、掛け地図、スライドなどを使って日本の位置を経度や緯度を使って表現したり、日本と同じ経度や緯度にある他の国を

挙げたりした。最後には他の国から見た日本の位置を生徒独自の方法で表現する活動をした。しかし、授業全体として指導者の指示に従って生徒が作業をこなすだけの授業になるという課題も見られた。

事後指導では、ただの作業にならないための方法について指導した。さらに、理解の早い生徒とそうではない生徒に対して同時にどのような指導をすればいいのかということについても助言をした。

(26) 京都市立堀川高等学校

教育実習生の授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、高等学校地理歴史科（地理的分野）の第2章「生活文化の多様性と国際理解」の「季節の違いに対応した生活・寒冷な気候に対応した生活」（1年3組41人）が取り上げられた。本時の目標は「気候と土壌、農業とが関連していることを理解し、それぞれの地域に合った暮らし方について説明できる。（知識・技能）」であった。

授業では、板書を中心に授業者が進めるスタイルの授業であった。しかし、授業者の板書の説明に時間がかかってしまい、最後の活動をする時間を十分に確保することができなかった。

事後指導では、前半の説明部分の時間をどうすれば短縮できるのかと、最後の活動をより効果的に行うための方法について助言をした。

(27) 京都先端科学大学附属高等学校

① 1回目の訪問：6月15日

教育実習生の授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、高等学校地理歴史科（日本史分野）の「幕政の安定」「幕政の改革」（3年5組34人）が取り上げられた。本時の目標は「正徳の政治と享保の改革の諸政策の意義や過程を理解している。（知識・技能）」であった。

授業では、プリント、スライドなどを使って、正徳の政治と享保の改革における諸政策について指導者が説明を行った。しかし、授業全体として指導

者が一方的に話す授業になってしまい、いかに生徒を授業に参加させればいいのかという課題も見られた。

事後指導では、主に生徒を授業に参加させるための工夫について、担当教諭と共に指導をした。

まだ実習において授業を始めたばかりなので、今後は今日の授業の反省点を次回以降の授業でひとつずつ改善していくことを確認した。

② 2回目の訪問：6月20日

教育実習生の授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、高等学校地理歴史科（日本史分野）の「寛政の改革」（3年5組34人）が取り上げられた。本時の目標は「田沼の政治との比較から寛政の改革について考える。（思考力・判断力・表現力）」であった。

授業では、プリント、スライドなどを使って、前半は寛政の改革について指導者が説明を行った。そして、後半は前時に学習をした田沼の政治と寛政の改革を生徒が民衆の立場に立って評価をしていった。しかし、前半の説明で時間をかけすぎ、後半の評価をする場面では生徒がどのように評価をすればいいのかを把握できないままに授業を進めてしまっていた。

事後指導では、本時のような生徒が考える授業の進め方について助言をした。次回の授業でも生徒が考える場面を設定する予定になっているので、本時の反省を活かすように伝えた。

③ 3回目の訪問：6月22日

教育実習生の授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、高等学校地理歴史科（日本史分野）の「元禄文化」（3年7組23人）が取り上げられた。本時の目標は「幕府の政策を通して江戸時代の儒学について理解する。（知識・技能）」であった。

授業では、プリント、スライドなどを使って、前半は生徒が教科書から朱子学、陽明学、古学の説明箇所を抜き出す作業をした。そして、代表の生徒

がその内容をホワイトボードに書き、それをもとに全体で理解を深めていった。後半は授業者の説明を中心に朱子学、陽明学、古学の違いについて学習した。全体的には生徒とやり取りをしながら授業を進めることができたが、やり取りをしていたのが一部の生徒になってしまっていた。

事後指導では、ホワイトボードのレイアウトを考えることやキーワードをホワイトボードに書くことによって漢字の意味から言葉の意味を類推させる手法などを助言した。

(28) 神戸市立須磨翔風高等学校

教育実習生の授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、高等学校地理歴史科（日本史探究）「律令国家の変容」（第 2 学年日本史探究 24 34 人）が取り上げられた。本時の目標は「唐風文化について唐からどのような影響を受けているのか理解している。（知識・技能）」であった。

授業の導入では、「受験で言っではいけない言葉は何か。」を生徒に問い、そこから授業で取り上げる「言霊」にうまくつなげていた。その後はプリント、スライドなどを使って、授業を進めていた。しかし、全体的に発問が不明瞭であったり、導入でうまく引き出した「言霊」を活かしきれなかったりしたなどの課題も見られた。

事後指導では、発問をはっきりとさせることや授業のテーマを明確にしながらか授業を進めることを助言した。

(29) 鳥取市立鹿野学園（小中一貫校）

教育実習生の授業を参観し、授業後に事後指導を行った。授業では、中学校社会科（地理的分野）第 1 章 2 節「私たちの生活と文化」3「多文化共生を目指して」（9 年 A・C 組 21 人）が取り上げられた。本時の目標は「多文化共生の実現に何が必要か考えよう。（思考力・判断力・表現力）」であった。

授業では、プリント、スライドなどを使って、前半は生徒がペアで世界に広がった日本の文化や日本に広まっている海外の文化などについて考えた。

後半はグループで前半の意見を活用して多文化共生の実現に必要なことを考えた。全体的には生徒の活動量が多い授業となっていたが、多文化共生の意味や多文化共生を実現する上で障害となることなどを考えることができなかった。

事後指導では、教材研究をさらにしっかりとやるように助言をした。

校長先生からは、大学でよく指導がされているとお褒めの言葉を頂いた。

4. 教育実習事前指導と教職実践演習の充実

「教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ」では、学生が模擬授業を行っている。この授業を履修するためには1、2年生で指定された科目の履修をするなどの条件を満たす必要がある。そして、この授業ではこれまで一人あたり年間で4～6本の模擬授業（50分）を行ってきた。模擬授業を行う前には学習指導案を作成し、添削の指導を受け、さらに学生同士で模擬授業の検討を行う。授業後は仲間や教員と実施した授業について話し合っていく。さらに授業を録画した映像を見て客観的に授業を振り返り、その内容をまとめるという課題も行ってきた。

この授業の成果は4年時の教育実習でも発揮されてきた。2023年度教育実習訪問指導の記録の中にも、以下に示すようにその成果は現れていた。

実習生が真面目で成績が優秀なため、本学に対する評価はかなり高いものがあった。(2)

実習生が真面目で全力で取り組んでいるため、本学に対する評価はかなり高いものがあった。(4)

実習生が積極的に、そして熱心に教育実習に取り組み、プリントやスライドづくりをしっかりとやっていることを伝えて頂いた。さらに、高校時代から比較をして、大学で鍛えてもらっていることわかりま

したとの言葉も頂いた。(24)

校長先生からは、大学でよく指導がされているとお褒めの言葉を頂いた。(29)

その一方で、やはり模擬授業は生徒役の学生に授業をするので、本当の生徒に行う授業との違いが多くある。その影響と思われる課題も、以下に示すように多く挙げられていた。

発問の言葉の大きさも言葉使いも教師らしくなっていたが、話すスピードが少々早く、生徒の反応を見ながら話すことができればよかった。気になったのは、説明が多く生徒への発問やグループ討議的に考えさせる授業展開の工夫があればもっと良かったのではないか。(8)

初めてのクラスでの指導であったので、授業の盛り上がりには欠けていた。全体の生徒への気配り、目配りができればよいのだが。(11)

今日のクラスでは、思ってもいない生徒の答えで少し指導内容にあせり時間の配分が上手くいかなかった。(13)

(バスケットボールの)パスからシュートへのイメージが女子生徒に持たせる工夫があれば良かった。活動を止めて次の指示までが早く、生徒が注目して、ボールの音がなくなってから集中している段階で指示する必要がある。(14)

グループ協議を3回行っていたがその都度机の移動をしていたが、グループのままでの授業を進めても問題はなかったように思う。(17)

感染症の病名が自分の考えていた以外が生徒から出てきてその対応をスルーしていた場面があった。しっかり教材研究が必要である。

(17)

授業全体として指導者が一方的に話す授業になってしまい、いかに生徒を授業に参加させればいいのかという課題も見られた。(24、27)

全体的には生徒とやり取りをしながら授業を進めることができたが、やり取りをしていたのが一部の生徒になってしまっていた。(27)

全体的に発問が不明瞭であったり、導入でうまく引き出した「言霊」を活かしきれなかったりしたなどの課題も見られた。(28)

もちろん、本当の生徒に授業をするという初めての体験をするのが教育実習であるとの位置付けであるなら大きな問題はないように思われる。しかし、教育実習の事前指導をするのであれば、少しでもその課題を解決するための方策を練り、実践をしていく必要があると考えられる。具体的には、模擬授業の中で授業者が生徒（役）とやり取りをする機会を増やすことである。さらに、生徒とのやり取りを円滑に行うためには十分な知識も必要となる。このことは前述のこの記述にも現れている。

感染症の病名が自分の考えていた以外が生徒から出てきてその対応をスルーしていた場面があった。しっかり教材研究が必要である。

(17)

つまり、生徒（役）とのやり取りがうまくいかない経験をすることで、自分自身の知識不足、教材研究不足を実感することができるのである。また、

生徒（役）とのやり取りをする機会として、生徒（役）が活動する場面をつくるという方法もある。現在の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が推奨されている。この中で、生徒が活動して自ら学んでいく、そんな環境を授業者がつくることが求められている。しかし、この環境づくりはとても難しい。だからこそ、早くから取り組む必要がある。

そして、生徒役とのやり取りの機会を増やすときに忘れてはいけないのが、生徒役の学生の役割の大きさである。どうしても学生が生徒役をしていると、授業者の説明が拙くても付度をして動いてしまう。しかし、それでは授業者が自分の説明が拙かったことに気づけない。そこで、生徒役の学生も本当に生徒になりきって、授業者の説明が拙ければ生徒がどういった反応をするかを考えて行動をする必要がある。こういったことを「教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ」を指導する教員は認識しておき、学生に対してどのような指導をすればいいのかを日々考える必要がある。

また、この課題の解決に向けて 2023 年度秋学期には中学校社会科・高等学校地理歴史の免許課程では、本学の附属校である京都先端科学大学附属中学校高等学校で 50 分の授業をする計画を立てている。計画では、授業をするまでに大学で模擬授業を一人 2 回（50 分×2）行い、授業をするクラスの授業を 2 回見学し、生徒との交流の時間を取りたいと考えている。そして、模擬授業では充実させることが難しかった、学習指導案の生徒観を充実させたいと考えている。もちろん、初めての取り組みなので様々な課題も出てくることが予想されるが、少しでも学生や附属校の生徒にとって有意義な活動になるようにし、次年度以降も継続できるようにしていきたい。

そして最後に、忘れてはいけないのが以下の課題である。

技能面では即戦力レベルであるが、専門教養が不足している。(3)

指導案に関しては、もう少し指導する必要があると感じた。(8)

まだもう少しはきはきと指示ができればなお良かった。(14)

教科書の内容を全て教えるのではなく、教科書を活用してねらいに迫ることがポイントである。(17)

これらの課題は大学での事前指導でも改善を図ることができる。まだ、こういった課題が散見されるということは、事前指導についてこれまでやってきたこともしっかりと見つめ直す必要があると考えられる。

事後指導である「教職実践演習」は、基本的にはグループで授業を作成し、対面とオンデマンド（録画）で行うという活動をしている。主なねらいは、対面とオンデマンド（録画）の違いを実感したり、ICT 機器をはじめとした教材・教具の使い方を改めて考えたりすることである。

この主なねらいと 2023 年度教育実習訪問指導の記録における課題から考えると、やはり「学習者をいかに巻き込んでいくのか」ということを突き詰めていく必要があることが挙げられる。授業で生徒とやり取りすることの大きな目的の一つは生徒を授業に巻き込んでいくことである。さらに、それが対面とオンデマンド(録画)ではそのやり方を大きく変えなければならない。

「学習者をいかに巻き込んでいくのか」ということを意識すれば、その違いをさらに意識することができると考えられる。

また、このことは教員に限らずその他の仕事を行う上でも、現代社会で生活をする上でも考えなくてはならないことである。教員免許を取得して卒業する学生の全員が教員になるわけではない。そう考えると、教育実習をはじめとした教職課程で学んだことがこれからの仕事や人生に活かされるということを教職実践演習を指導する教員は認識しておき、学生に対してどのような指導をすればいいのかを考える必要がある。

5. 教育現場からの提言

(1) 教育実習生の受け入れと事前準備

① 教育実習の位置づけ

教育実習は教育職員免許法に規定される必須科目であり、教育現場での実地体験をとおして、教員として必要な知識、技能、態度、心構えなどを実践的に修得するために行われる大学の教職課程において極めて重要な教育活動である。

教育実習生の受け入れは高校においては、後継者育成の観点から重要な業務であるとともに、教育実習期間を自校の公開授業期間に合致させ、教員の研究授業・公開授業を行うなど授業研究を教育実習生の指導に併せて実施し、事後に教職員研修を行うなど教育活動の活性化に寄与できるよう工夫することも意義あることである。

② キャリア教育推進の観点から

農業科の教育実習生は農学系学部からの大学生であり、かつ自校の卒業生であるケースも多い。教育実習生を後輩である高校生が憧れを持って受け入れるよう指導し、教育実習生の頑張る姿が高校生の進路指導に係わる教材となるよう諸環境を整備することが重要であると考えられる。例えば、教育実習期間中、進路指導に位置づけたホームルーム活動において在校生向けに、教育実習生による講話、ディスカッションを計画・実施することもキャリア教育推進の観点から効果が期待できる。

③ 農業科教員育成の観点から

教育実習期間において教育実習生が農業科教員に向かう決意を固め資質を向上させる有効な指導期間として、適切な指導を全校体制で組織的に行うとともに、特に卒業生である教育実習生に対しては、指導者側にも甘えが発生することのないよう、適切に事前指導を行うことが必要である。

加えて、教育公務員としての守秘義務の遵守、特に個人情報の取扱や生徒

への適切な指導のあり方を事前指導だけでなく、教育実習期間中においても随時、指導を行う必要がある。

④ 大学での事前指導

大学においては教育実習事前指導等において受け入れ校の年間指導計画を踏まえた、学習指導案の作成や模擬授業等を実施し、多様な教授法を習熟させ、教育実習期間前後の授業・実習において影響が生じないように指導に取り組む必要があると考える。

(2) 教育実習期間中の指導

教育実習生には、実習受け入れ校の服務規程に従い勤務し、授業・実習への教材研究、指導案作成等に専念させ、授業・実習を担当させるとともに、大学からは、研究授業に参観し、教育実習生に指導・助言を行い、教育実習期間中に随時実習受け入れ校を訪問するなど、日頃から実習受け入れ校と適切な関係性を構築する必要があると考える。

また、可能な範囲で教育実習期間中の活動を事後指導に活かせるよう、情報収集に努め、農業科教員としての資質・能力を向上させよう取り組みを行う必要があると考える。

(3) 事後指導と教員採用試験に向けて

教育実習終了後は、教育実習生の体験内容、職業としての教職へのモチベーション等を丁寧に聞き取り、疑問や不安を解決に向かえるよう支援するとともに、農業科教員を生涯の職業として使命感と情熱を持って粘り強く、教員採用試験に向かえるよう指導・支援することが必要と考えている。

6. おわりに

今回、教育実習訪問指導の記録から教育実習の事前・事後指導について考えたが、やはり記録という根拠をもとに考えることによって成果や課題がよ

り明確となった。もちろん、これまで教職課程連絡会という場で話したことによって明らかになった成果や課題と大きな差はなかったが、私たちが感じてきたことが間違っていなかったことを証明できたことに大きな意義があると考えている。さらに、記録として残せたことでこれまでの指導を振り返るときの貴重な材料ともなるであろう。

課題としては、これまで教育実習訪問指導の記録の形式を定めていなかったために記録の取り方が統一されていなかったのも、事前・事後指導を考えるための材料として不十分なところもあった。そこで、今後は訪問指導の記録の形式を定め、ある程度定まった視点から教育実習訪問指導の記録を残していきたい。そうすることで、教員間で問題意識をある程度定めて教育実習生の授業を見たり、教育実習校の先生方の話を聞いたりできる。もちろん、このことは教育実習生への指導にも活かされると考えられる。また、本稿では事前指導である「教育実習事前指導Ⅰ・Ⅱ」については、課題や今度の取り組みについて十分に考えることができたが、事後指導である「教職実践演習」については十分に考えられたとは言い難い。そこで今後は、事後指導まで視野に入れて事前指導や教育実習訪問指導について考えていきたい。

【謝辞】

京都先端科学大学の教育実習生を受け入れ、ご指導頂いたすべての学校に対し、感謝申し上げます。

